

授業作り	重点	主体的・対話的で深い学びをとおして確かな知識・技能を身に付けさせ、思考力・判断力・表現力を向上させる。
環境作り		協働学習支援ソフトやデジタルドリルの活用、タブレット端末を使った課題作成・提出などとおしてタブレット端末を使った学習をより日常化する。

■ 各教科の取組について

教科	学習状況の分析 (各種調査から)	学校が取り組む目標 (日常の授業の様子などから)	目標達成のための取組
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>書くこと、読むこと、言語についての知識・理解・技能の各観点では、全国及び区学力調査結果の平均を0.7～5.3%、また、話すこと・聞くことのポイントも0.7～10%上回っている。</li> <li>1年生は授業や学習に取り組む意欲が高い。</li> <li>2年生は課題を把握し主体的に取り組む力や態度に個人差がある。</li> <li>3年生は概ね落ち着いた態度で主体的に授業に取り組んでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一部に「書く」ことへの苦手意識をもつ生徒がおり、字が雑であったり漢字を避けて平仮名だけの文章を書いたりする生徒もいるため、書字について引き続き重点的に指導する。</li> <li>自分の意見を発表することに更に積極的に取り組ませるとともに、より論理的にわかりやすく伝える技能を身に付けさせる。</li> <li>言語知識の定着を図る。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>「書く」活動の重点化</li> <li>プリント学習の量・質的充実</li> <li>添削指導の充実</li> <li>話し合いや学び合い活動</li> <li>場面に応じた発表活動</li> </ol>
数学	<ul style="list-style-type: none"> <li>知識・技能および思考・判断・表現力ともに全国学力調査結果の平均を上回っている。</li> <li>全国学力調査では、関数、図形、データの活用いずれも全国の平均を上回っているが、数と整数の乗法の計算、累積度数の意味の理解度は東京都の平均を下回っている。</li> <li>全国学力調査では思考・判断・表現力を必要とする記述式の問題の正答率が低く、身に付けた知識・技能を応用して記述する力に課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎学力の定着を図るために、繰り返し学習を行う。</li> <li>数学的な見方や考え方を伸ばせるような課題にグループ学習などとおして取り組ませる。</li> <li>個別に適切な学習内容に取り組むことができるように、定期的にレポートを作成・提出させることをとおして一人ひとりの学習状況を把握する。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>基礎・基本の習得の徹底</li> <li>デジタルドリルの活用</li> <li>話し合いや学び合い活動</li> <li>場面に応じた発表活動</li> <li>レポートの作成</li> <li>習熟度別少人数授業の活用</li> <li>デジタル教科書の活用</li> </ol>
理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>区学力調査では2年生はいずれの領域でも全国平均を上回っているが、3年生の「生物の体のつくりと働き」においては平均を下回っている。また、短答式の問題に対する正答率が低く、生物に関する思考問題の正答率が低い。</li> <li>理科に対する興味・関心を持ち、意欲が高い生徒が多い。</li> <li>過去の学習内容の定着度や、出題方法の変化に対応する力に課題がある生徒がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>デジタルドリルや問題集を活用し、定期的な振り返りとおして学習内容の着実な定着を図る。特に生物と化学の領域ではこれらを徹底する。</li> <li>自ら考えたことを文章に論理的かつ簡潔にまとめる力を定着させる。</li> <li>身の回りの事象と学習内容を結び付けて理解できるようにする。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>デジタルドリルの活用</li> <li>小テストの実施(1・2年生のみ。3年生は単元末テストを実施)</li> <li>話し合いや学び合い活動</li> <li>場面に応じた発表活動</li> <li>生活と関連付けた教材研究</li> </ol>
社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>都学力調査では、社会科を「得意」と感じ、「よく分かる」と回答した生徒が平均を上回っており、意欲的に取り組む生徒が多いが、一部に学習内容の定着が不十分で、前向きに取り組むことが難しい生徒もいる。</li> <li>区学力調査では基本的な問題以上に、思考力や表現力が必要な問題への正答率が高い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>デジタルドリル等の問題集を活用し、反復学習を継続したことで学習内容の定着に効果があったことから今後も継続する。</li> <li>身の回りの社会的事象を学習内容と関連付けて理解できるようにする。</li> <li>「例えば」(具体)と「要するに」(抽象)の2つの言葉を意識させることで、本質的な理解を深め、思考力の深まりへ繋がっていることから今後も継続する。</li> <li>自分の言葉で説明・表現をする際に、複数の資</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>小テストの実施</li> <li>デジタルドリルの活用</li> <li>生活と関連付けた教材研究</li> <li>話し合いや学び合い活動</li> <li>場面に応じた発表活動</li> </ol>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>複数の資料から必要な情報を抽出し、関連付けて説明したり、事象について自分の言葉で表現したりすることに苦手意識をもつ生徒がいる。</li> </ul>	<p>料を根拠にし、情報を関連付けて論旨を展開する活動を通して、情報を抽出し、活用する力を育成する。</p>	
英語	<ul style="list-style-type: none"> <li>1年生は区学力調査の「読むこと」「書くこと」の正答率が平均を10%以上上回っているが、「聞くこと」は4.4%のみである。</li> <li>2年生は区学力調査の正答率がいずれの領域も平均を8%以上上回っている一方、学力下位層が22.1%と一定数存在する。</li> <li>3年生は全国学力調査の平均正答率が全国平均を9.6%上回っているが、「音声を聞き自分がすべき行動を問う問題」では2.3%下回り、概要をとらえる問題でも2.3%、意見を書く問題でも1.6%下回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>デジタル教科書のTF/QA機能の活用やALTとのやりとりを繰り返すことをとおして、「聞くこと」の学力を高める。</li> <li>「誰が何をどうした」を把握させうえで英文QAの答え方を丁寧に指導したり、デジタルドリルで文脈をとらえて空欄を埋める学習に繰り返し取り組ませたりすることをとおして「読むこと」の学力を高める。</li> <li>全ての学年で場面に応じた即興のやりとりをwarm-upで行うとともに、録音機能を活用しESAT-Jに向けて客観的に自身の話し方を把握させ改善を図らせることで「話すこと」の学力を高める。</li> <li>冠詞や前置詞なども含めたwriting強化のため、デジタル教科書のマスク機能を活用してreproduction(本文再生)を毎時間行ったり、オクリンクを使った表現活動に取り組ませたりすることをとおして「書くこと」の学力を伸ばす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①デジタル教科書の活用</li> <li>②デジタルドリルの活用</li> <li>③口頭練習や場面に応じた発表活動</li> <li>④英作文の継続的な取り組み</li> </ul>